

Kids know best. Play, think and create during our Journey.



Learning journey

2021/05/20
KANAGAWA

Learning journey?



2



学びの旅は、0歳からはじまっている。

「人生は、旅のようなもの」。そう例える人がいます。
旅とはなんでしょう。人との出会いがあり、新しい気づきがあり、未知の驚きがあり、好奇心を刺激し、感動の体験が心に刻まれるもの。そしてなにより楽しい。
人は、旅を通して学び、成長する存在といえるかもしれません。

子どもたちが直面する社会のありかたが、大きく変わろうとしています。
でも、もし乳幼児期における学びこそが、よい社会をつくる大きなエンジンだとしたら、保育を見つめてきた私たちにしかできない仕事がある。私たちだからこそできる仕事がある。
なにより私たちに、子どもたちに人生の喜びや魅力を伝えることができる。
今日という一日を、人を愛し、自然を受け入れ、好奇心と想像力にしたがい、楽しく学び生きていくという、素敵な旅を子どもたちに体験してもらおうとできる存在なのです。

私たちは、Learning journey(ラーニング・ジャーニー)という、新たなプロジェクトをはじめます。
従来の一方通行的な乳幼児教育・保育のありかたから離れ、先生だけでなく、保護者や地域社会、企業などさまざまな大人との出会いを通して子どもたちが生きる喜びを感じ、夢をかなえる旅を始める。
保育園、認定こども園、幼稚園の枠を越え、子どもたちの学びの環境ステージづくりにチャレンジします。
ぜひあなたも、この学びの旅のデザイナーになりませんか？







withコロナ時代に求められる
保育の質向上と園のマネジメント

(全国の保育施設に関わる園長先生/施設管理者向け)

7/14 (火) 13時30~14時40分

無料オンラインセミナー開催




玉川大学教授
大豆生田 啓友



社会福祉法人
日本保育協会評議員
LearningJourney主宰
認定こども園さくら園長
堀 昌浩





Learn by Creation
a.k.a. the infinite possibilities

創るから学ぶ世界は
無限大の可能性を切り開く

2019/08/03-04

保育をどうしよう未来会議
スペシャル対談企画

世界一ワクワクする 子どもの育ち方

日時 11月26日(木)18:00-19:00 @zoom
対象 子どもの感性や創造力/表現力を育みたい大人

事前登録受付中 (無料)

(福)日本保育協会評議員 認定こども園さくら 園長 堀 昌浩	洗足こども短期大学 幼児教育保育科 准教授 井上 真理子	ユニファ(株) 代表取締役CEO 土岐 泰之	株式会社リアルディア代表取締役社長 元アップル日本法人代表取締役 前刀 禎明
---	---	-------------------------------------	---

いつ? ・ どこで? ・ だれから?

人類とInnovation (革新)



人類とInnovation（革新）

農耕



人類とInnovation（革新）

国家



人類とInnovation（革新）

国家（戦争）



今の子どもたちは

「22世紀を生きる最初の世代」

『現在のデータと推定情報によれば、
2019年に生まれた子どもたちのうち、
女性は約77.9%・男性は約57.9%、22世紀まで生きる』
そうです。

大人になってからも、大きな社会変動に適応し、
意欲を持って学び続けながら、答えのない問題に解を見出し、
新しい社会を創造しなければな





Volatility (変動性) Uncertainty (不確実性) Complexity (複雑性) Ambiguity (曖昧性)

「進化したAI が人間の仕事の大部分を奪ってしまうのではないか」
 「学校で教わったことがすべて通用しなくなってしまうのではないか」
 「AI を創り使いこなす人と使われる人で大きな格差が生まれるのではないか」
 「2011年に小学校に入ったこともたちの65%は今、ない職業につく…」

うちのこどもの将来は、いったいどうなってしまうの。。。。

予測困難な、ポストAI時代であるVUCA社会の変化の中で、
 こどもたちが幸せに生きるためには何が大切なのか。。。。

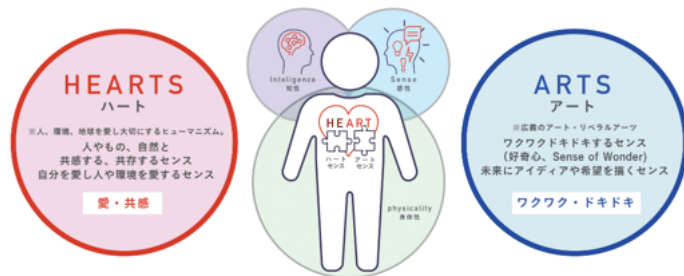


「進化したAI が人間の仕事の大部分を奪ってしまうのではないか」
 「学校で教わったことがすべて通用しなくなってしまうのではないか」
 「AI を創り使いこなす人と使われる人で大きな格差が生まれるのではないか」
 「2011年に小学校に入ったこともたちの65%は今、ない職業につく…」

うちのこどもの将来は、いったいどうなってしまうの。。。。

予測困難な、ポストAI時代であるVUCA社会の変化の中で、
 こどもたちが幸せに生きるためには何が大切なのか。。。。

新しい時代を生きるこどもたちに必要なもの。
 それは**ハートとアート**のセンス。
 それらは感性・知性（好奇心）・身体性を刺激する豊かな**遊び**によって育まれる



The sense of "Hearts & Arts" と 生きるセンス

Society 5.0とは

サイバー空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたシステムにより
 経済発展と社会的課題の解決を両立する、
 人間中心の**社会（Society）**



[内閣府作成]

Society 5.0に向けた学校ver.3.0 資料 8-3

Society 3.0
工業社会

Society 4.0
情報社会

Society 5.0
超スマート社会

人間としての強み（現実世界を理解し状況に応じて意味付け、倫理観、板挟みや想定外と向き合う力、責任を持って実行する力など）
共通して求められるのは、文章や情報を正確に読み解き対話する力、科学的に思考・吟味し活用する力、価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力など

学校ver.1.0（「勉強」の時代）

◆教育のリソース（教師、教材、場所）を学校が独占し、企業が決められた課題に者に授業を受け、知識再生型のペーパーテストで成果を測定。

◆カリキュラムは知識の体系（典型が、国語の学年別漢字配当表）。

◆重視されたのは、知識を正確に記憶する基礎学力、忍耐強さ、あらかじめ定められた計画を着実にこなす正確さ。

◆教員の授業研究による教育方法工夫・改善の自主的な蓄積に依存

学校ver.2.0（「学習」の時代）

◆日本の学校教育の蓄積を活かしつつ、能動的な学び（アクティブ・ラーナー）を育成する「主体的・対話的で深い学び」。

◆5段階一偏重の大学入試から記述式を導入した変える入試への転換など高大接続改革。

◆カリキュラムは能力重視の体系へと転換。（語彙を表現に活かす、科学的に思考する、数学を日常生活に活かす...といった認知的能力とその土台となる学習意欲や協働しようとする態度を重視）

◆重視されているのは、自分自身の文脈で情報を編集し、協働・対話を通じて新しい価値や「納得解」を生み出す力。

学校ver.3.0（「学び」の時代）

◆「K-12教育」から「K-16プログラム」へ
次世代型学校においては、教育プログラムを個別最適化した「学び」へ。
K-16のグレードは学年ではなく能力のレベル。人生100年時代のリカレント教育を前提とした教育の仕組みへ。
K-16プログラムは、次世代型学校を軸に大学、NPO、企業など様々な主体がそれぞれの強みを活かして提供

◆「能動的な学び（アクティブ・ラーナー）」
個別最適化された学びのサポート（ラーニング・オーガナイザー）
個々の子供の学びと授業における両面学習の学びスタイルを構築（新たな公教育の役割）

◆個人最適化された学びと学びのポートフォリオ
公教育の重要な役割は、子供の学びの状況を観察し、個人に対応した学びの実現を支援
次世代型学校を軸に、大学、NPO、企業などが提供する様々なプログラムを選択して学ぶエデュ・ラーニング（※）
学校は、実体験や他者との対話・協働をはじめ多様な学習活動の機会を公正に提供する役割を重視
個人の学習成果（作文、作品、レポート、プレゼン等）は学びのポートフォリオとして「書き出し」（蓄積）

◆個人の認知と性向の特性を踏まえた支援（認知科学と教育ビッグデータの活用）
※ビッグデータのリスクや限界にも留意

◆教育ビッグデータの収集・分析（総合的なエビデンス）
※エデュ・ログ（学習の痕跡）
自治体間や国との連携、研究機関・企業との連携
※エデュ・タスク・ラーニング：いつでもどこでも学習できること

◆国民国家モデル ◆マーケット・ソリューション（市場が課題解決） ◆グローバル市場経済モデル ◆持続可能な開発モデル

人間存在としての基本的な価値や人格形成（善く生きるとは、個人と他者、社会との関わり方…）

「生きる力」に必要なこと？

健康な心と身体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

教養・図形・文字等への関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

乳幼児期の終わりまでに育ってほしい具体的な姿
（幼児教育の普及と小学校教育の円滑な移行について（報告）より）

Learning journey

教育スタイルの変化

成長期

- ・ 成績を上げたい
- ・ わかりたい
- ・ 自分が得をしたい
- ・ 「がんばったね」が嬉しい

⇔

成熟期

- ・ 知識を活かしたい
- ・ 助けになりたい
- ・ 社会をよくしたい
- ・ 「ありがとう」が嬉しい

56

教育スタイルの変化

成長期

自分のための学び
(利己的)

⇔

成熟期

誰かのための学び
(利他的)

57

教育スタイルの変化

アイデアを形にする力



58

Learning journey

関わる全ての人の「幸せ」を
共有・共感できる学びのステージ



60

Learning journey

- ・「ひとりの子ども」の夢や喜びが、いつの間にか「自分のための学び+誰かのための学び」になる
- ・同質性から、多様性の時代のキーワード



61

Learning journey

子どもの主体性が優位な内容
VS
保育者の意図が優位な内容

62

本物にふれることの大切さ

「本物」

企業が創り出した、日本の叡智・技術
長い歴史が創り出した伝統

子どもたちの豊かな環境に適した
「子ども目線のプログラム」
に咀嚼



63

6つのポイント

- 1) 子どもの「夢」や「願い」から出発
- 2) 「ラーニング・パートナー」である大人は、子どもの学びの場作りに参加する
- 3) 長期的・連続的・発展的に展開される
「無から有を生み出す」プロジェクトの展開
- 4) 「偶然性」や「失敗（＝上手くいかない経験）」を楽しみ、次の学びのきっかけとして活かす
- 5) 保育環境づくりにおいて、「保護者」や「地域社会」
「企業」を積極的に巻き込む
- 6) 「保育者の立場（＝子どもと一緒に楽しむ）」も常に進化し続ける

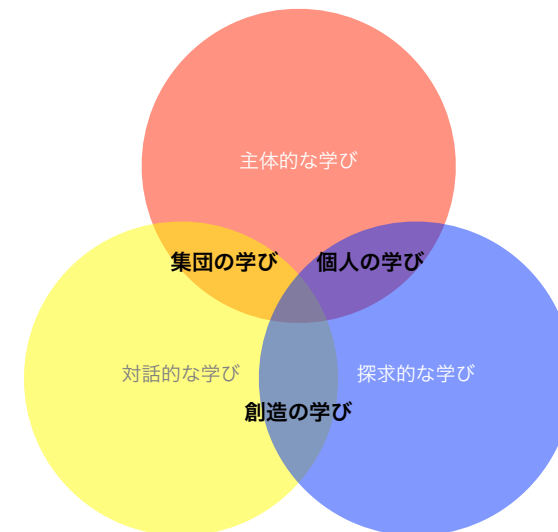
64

学びの三原色

主体的学び・・・赤
対話的学び・・・黄
探究的学び・・・青
個人の学び・・・紫（赤[主体的学び]×青[探究的学び]）
集団の学び・・・橙（赤[主体的学び]×黄[対話的学び]）
創造の学び・・・緑（青[探究的学び]×黄[対話的学び]）

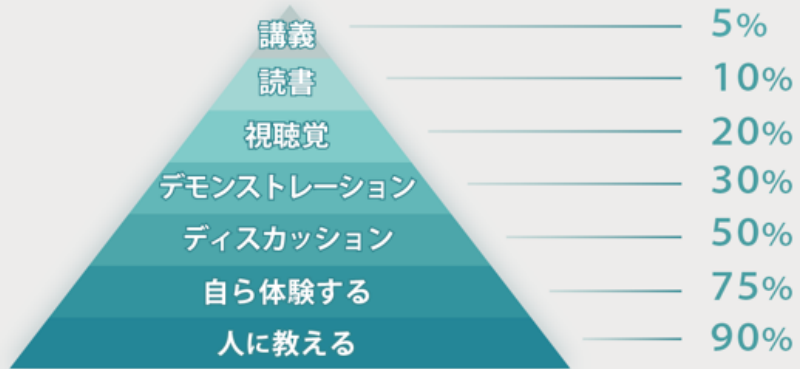


65



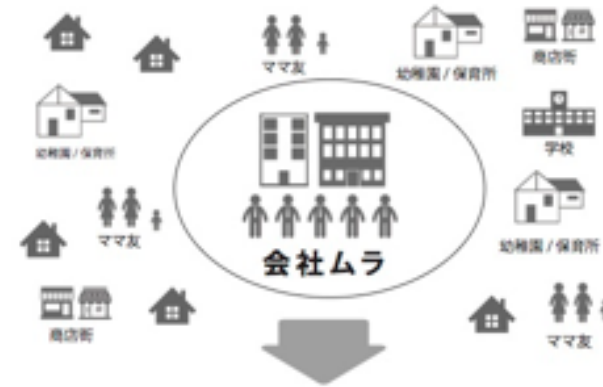
ラーニングピラミッド

学習定着率



Learning journey

現代の社会構造



Learning journey

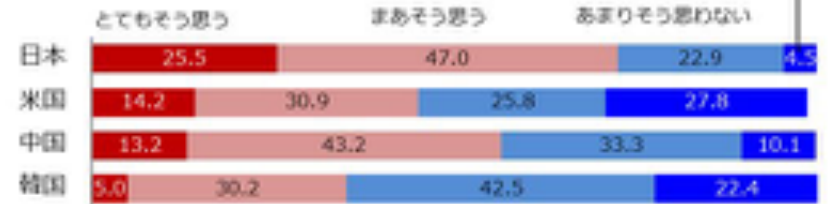
子育て村を中心とした社会構造



●図表1：自己肯定感の国際比較

●「自分はダメな人間だと思うことがある」

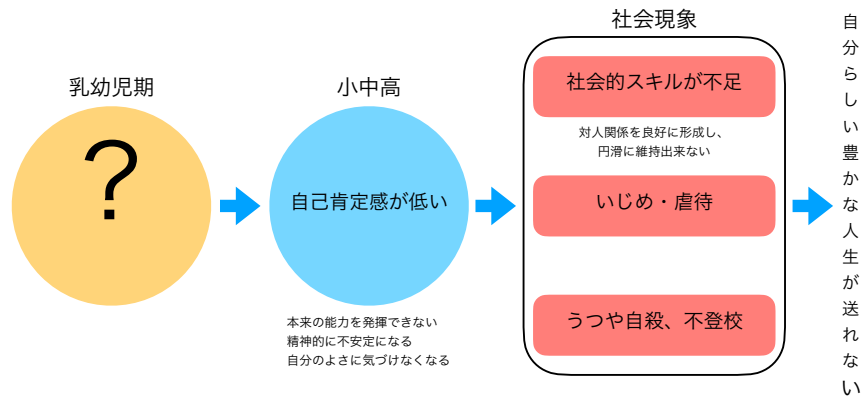
まったくそう思わない



出典：国立青少年教育振興機構「高校生の生活と意識に関する調査報告書～日本・米国・中国・韓国の比較」2015年

保育の見直し

課題
なぜ？日本人は自己肯定感が低いのか？



★予想される原因：自己肯定感が削がれていく幼児期～小中校期

<原因1>子どもに対する大人の理解

○大人：子どもは無知で未熟な存在←大人の上位からの見方
大人が教育することで、社会で有用な大人（望ましい大人）を育成しようとする
＝乳幼児期から、「させる教育へ向かう意識」
※ビジョンとしての「望ましい大人」はあってよい

○子ども：生まれながらに生きる力を持っている←対等な位置からの見方
＝乳幼児期には
自信を持って主体的に行動している、常に探求している、No t yetの感覚、
遊び/学びに一生懸命・貪欲、偏見や穿った見方はない

★予想される原因：自己肯定感が削がれていく幼児期～小中校期

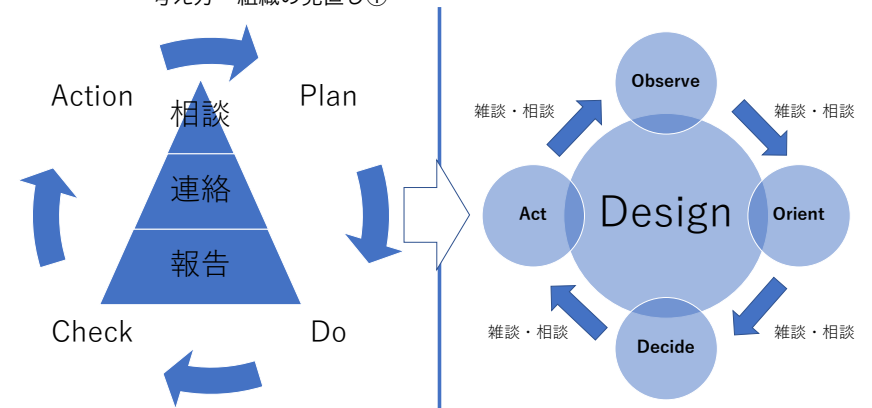
<原因2>明治から続く教育スタイル

○知識重視の教育→知的に高度な人材を求める
できる/できない・知ってる/知っていない評価 + テストによる知識評価
→できない人には自信につながらない
→少しでもできていないとダメなように感じる

○受け身な教育スタイル=没個性・独創性を失いやすい
考える・探求する必要がない
→自分で道を切り開く必要がないと感じる
→他者に依存・責任を求める、パラサイトの発想・行動

保育の見直し

仮説
どのようにしたら「子ども主体の保育」を実践できるのか？
保育者が子ども主体の保育に向き合う時間の確保
考え方・組織の見直し①



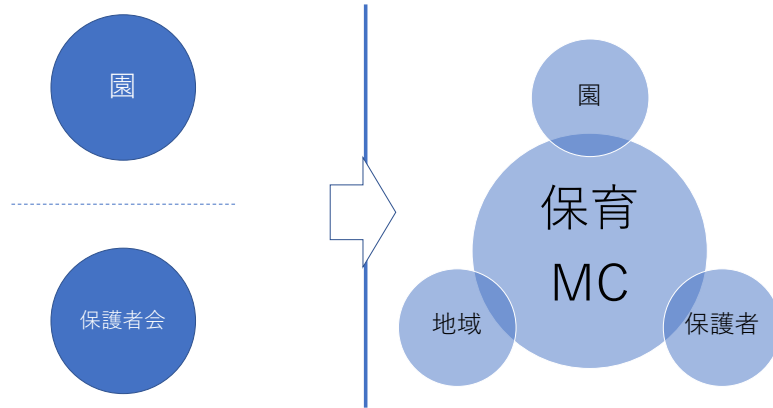
保育の見直し

仮説

どのようにしたら「子ども主体の保育」を実践できるのか？

保育者が子ども主体の保育に向き合う時間の確保

考え方・組織の見直し②



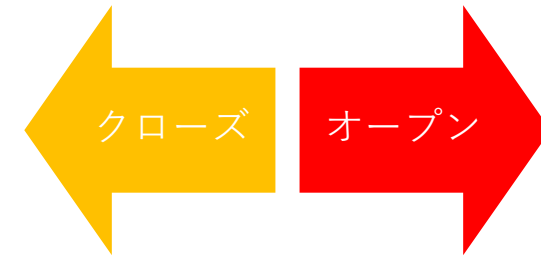
保育の見直し

仮説

どのようにしたら「子ども主体の保育」を実践できるのか？

保育者が子ども主体の保育に向き合う時間の確保

保育者が行っている業務を見直す考え方



パラダイムシフト
今までの考えや価値観が180度変わること

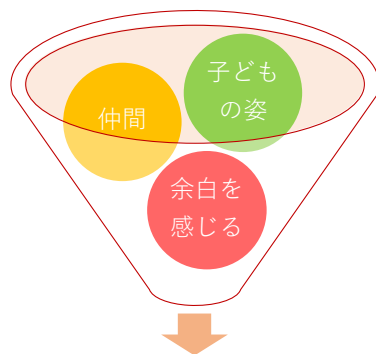
保育の見直し

仮説

どのようにしたら「子ども主体の保育」を実践できるのか？

保育者が子ども主体の保育に向き合う時間の確保

保育者が行っている業務を見直す考え方



保育はおもしろい！！

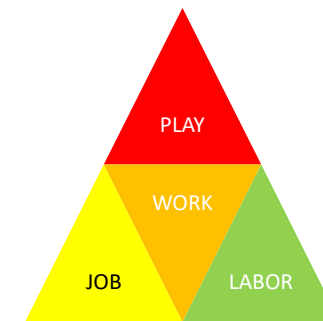
保育の見直し

仮説

どのようにしたら「子ども主体の保育」を実践できるのか？

保育者が子ども主体の保育に向き合う時間の確保

保育者が行っている業務を見直す考え方



PLAY： 楽しみながら
WORK： 使命感をもって
JOB： 片手間に
LABOR： 苦しい労働

保育の見直し

仮説

どのようにしたら「子ども主体の保育」を実践できるのか？

保育者が子ども主体の保育に向き合う時間の確保

保育者が行っている業務を見直す考え方

